

## 学校法人会計と企業会計の違い（比較表）

|         | 学校法人会計                                  | 企業会計                           |
|---------|---|--------------------------------|
| 目的等     | 教育・研究活動<br>非営利かつ公共的<br>損益均衡で利益獲得を目的としない | 営利目的<br>利益獲得を目的とする             |
| 主な報告書類  | 資金収支計算書<br>事業活動収支計算書<br>貸借対照表           | キャッシュ・フロー計算書<br>損益計算書<br>貸借対照表 |
| 基本的な財産  | 基本金（永続的保持する自己所有財産）                      | 資本金（株主出資）                      |
| 利益（剰余金） | 原則として収支均衡                               | 株主配当<br>賞与配当                   |

## 学校法人会計基準と企業会計原則との違い（比較表）

| 内容説明  | 学校法人会計基準 | 企業会計原則              |
|---|----------|---------------------|
| 財政及び経営の状況について<br>真実な内容を表示すること   | 真実性の原則   | 真実性の原則              |
| 全ての取引について、簿記の<br>原則によって、正確な会計帳<br>簿を作成すること                                    | 複式簿記の原則  | 正規の簿記の原則            |
| 資本取引と損益取引とを明瞭<br>に区別し、特に資本剰余金と<br>利益剰余金とを混同してはな<br>らない                        |          | 資本取引、損益取引区別の原則      |
| 財政及び経営の状況を正確に<br>判断することができるように<br>必要な会計事実を明瞭に表示<br>すること                       | 明瞭性の原則   | 明瞭性の原則<br>(適切開示の原則) |
| 採用する会計処理の原則・手<br>続き・計算書類の表示方法に<br>ついては、毎会計年度継続し<br>て適用し、みだりに変更しな<br>いこと       | 継続性の原則   | 継続性の原則              |
| 企業の財政に不利な影響を及<br>ぼす可能性がある場合には、<br>これに備えて適当に健全な会<br>計処理をしなければならない              |          | 保守主義の原則             |
| 株主総会提出、租税目的等異<br>なる形式の財務諸表を作成す<br>る必要がある場合、政策の考<br>慮のために事実の真実な表示<br>を歪めてはならない |          | 単一性の原則              |